# はくがんきん

## お会式 祈りは希望

第 91 号H26 年秋号
伊豆市　法住寺 発行

十月二十六日（日）、今年も良いお会式（えしき）でした。お題目、お経が本堂に満ち満ち、あらためて「祈る」ことの意義を感じ、とてもありがたい想いになりました。

＊

私たちは原始の時代から祈ってきました。大自然に祈り、朝の金色の太陽に祈り活力を得、月に祈り安らぎ、偉大な山や海にカミを感じ、水そのものをカミとして祈ってきました。またこの家屋が堅牢で、私たちが心豊かに暮らせる家族でありますようにと祈り、慈しみ慈しまれ、悲しみ悲しまれ、愛し愛されてきました。こうした宗教的心情は原始の時代よりずっと持ち続けてきたものであり、だからこそ心が育ち「人」となることができたのだと思います。

＊

現代社会では、生きることの基本は個人の人権の自由な主張という個人主義が、社会的価値観となっています。一人ひとりが人としての尊厳を尊重し合うことは最も基本的で大切な価値観なのですが、どうも自分は尊重して欲しいと主張するのですが、お互いに尊重し合うというところまで育ってないように思います。

もう一つは貨幣、お金です。個人主義の世の中で最も頼りになるのは貨幣ですし、市場経済という競争社会で貨幣はますます存在価値を増しています。個人主義、貨幣のどちらも現実として否定できるものでなく、その良さ便利さを認めるものなのですが、この二つだけでは、心からの安らぎ、幸せは得られないことは、皆さんも実感し納得されることと思います。

＊

迷ったら始めに戻る、人としての原初に立ち返ると、そこに「祈る」という心があったのです。大自然に祈り、その中に自分を調和できた時の何という安らぎ、幸せ。またご先祖さまを尊敬し祈る、さまざまな智慧が湧き「元気」気を元に戻すことができるでしょう。祈ることは安らぎであり希望であり、活力であることを想います。

今年も山下清さん、白龍会が万灯を奉納。感謝

お勝手　前日からコンニャク、餅つき、そして当日です

境内では纏が舞い、太鼓が響き、万灯が奉納されました

こうして先人たちは長い間、大自然を崇め祈り、その摂理、真理を求め尽くして妙法（ダルマ）を感得したのです。その妙法こそが法華経（妙法蓮華経）だったのです。

＊

今から七百五十年前、日蓮大聖人は、学び調べ尽くし求め尽くして、この法華経にたどり着き感得されたのです。きっと大聖人は、もう全身はち切れんばかりに、精神、心は爆発してしまったことでしょう、そして生れ変わり蘇生されたのだと思います。

この法華経こそ世の人々を安らげ心豊かにする唯一のお経、教えだ。この教えを世の人々、身分の上下、富のあるなし、学問のあるなしにかかわらず伝えるにはどうすれば良いか。ついにシンプルに明快に力強く「南無妙法蓮華経」のお題目となったのです。

大難四回㊟、小難は数えることができない程の法難にあいましたが、お題目を唱え続け法華経を伝えて下さいました。このお経は真だ、この真を伝えるために自分の命がなくなったとしても、これほど嬉しいことはないという澄みきったお気持ちでした。このことだけでも私はお題目を信ずることができるのです。この混迷の時代、信ずるものなど何もないという欺瞞がまかり通る時代に、お題目という心の大黒柱を頂けることは、何ともありがたいことです。たとえどんな嵐にあっても、明日何が起こったとしても、南無妙法蓮華経の大黒柱があるから、必ず乗越えることが出来る、そんな希望、光明を見出すことが出来るのです。

＊

「祈る」とは　慈しみ　慈しまれる　悲しみ
悲しまれる　愛し　愛される　心。

＊

お会式は、日蓮大聖人のご遺徳をお偲びし讃嘆、生きることのありがたさを皆さんと共に感謝する大切な式なのです。

日蓮大聖人　如何が讃ぜん　七三三遠忌
南無妙法蓮華経

㊟大難四回
日蓮聖人は四度の法難を蒙った。
松葉谷（まつばがやつ）法難、1260 年
伊豆法難 1261 年五月十二日四十歳
小松原法難 1264 年
竜口法難（佐渡へ）1271 年

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

### 親和力

野の花を採集する時、特に古い椿の枝等をおとす時、いつしか花の命を感ずるようになりました。何年もの風雨、暑さ、時には雪に耐えて大きくなった枝や花に申し訳ないと思いつつ、思い切ってハサミを入れているからです。

最近住職から「南無観世音菩薩」と唱えると、その枝なり花なりの仏性と、私の中にある仏性とが共にひびき合ってひとつになると云う話を聞きました。

親和力

季節は秋。境内に楚々と咲く「さらしなしようま」の白い花に「南無観世音菩薩」と唱えて一輪たおって、そっと花器に入れてみました。すると不思議なことに花が生き生きと光を放って神々しいほどに輝いています。花も木も命いっぱいに生きている。そのことを今一度思い知って、思わず手を合わせている自分が居るのです。

親和力

花と人。人と人であっても、お互いの中に

持っている仏性に手を合わせたいと思います。

# トピックス

## 夏の寺子屋

間食なし、ご飯の味が格別

十七名の子供たちが参加、中学生、保護者のサポーター―もあり、「来年も来たい」と楽しく意義ある一泊二日。今年で十回を数えました。

中学生のサポーター、楽しくお経の練習

## お盆のお施餓鬼、秋の彼岸会

「こうした節々で祈り続けて、心がニュートラルな状態になる」と話して下さった方がいます。科学や合理では説明できない不可思議な力を頂いていることを想います。ご多用な日々だからこそご参加下さい。

## 歴代廟整備

第一墓地上段にある法住寺歴代上人廟の墓石が二基倒れました。江戸時代からの墓石で基礎の土が流され、他の十数基も同じような状態です。来春までに整備していく予定です。

## 池上お会式　万灯

「白龍会」小塚順一会長を中心に、今年も東京池上本門寺お会式に参加、万灯を奉納しました。子供たちの纏（まとい）さばきもお見事、夜遅くの帰りでしたが、参加者は「今年も元気をもらったね」と輝いていました。

今年もツリークライミング　気持ちイイ～

カッコイイ～ッ！　カワイイ～ッ！

## 護持会総会

お会式法要後、護持会総会が開かれました。杉山勲副会長が開会、伊東修護持会長が事業報告、続いて会計報告、予算と協議、承認されました。皆さまのご参加、誠にありがとうございました。

## 洋明上人 荒行入行

十一月一日、洋明上人が「日蓮宗加行所（大荒行堂）」一百日修行に入行、午前九時入行会が法華経寺祖師堂にて行われました。

お堂を揺さぶるような読経の大音声は何とも素晴らしいものでした。伝師（荒行堂内最高指導者）の「私についてきて下さい」の

言葉に「ハイッ！！！」百三十数名の行僧の何とも清々しい大きな返事、見事でした。涙が自然に出てくるのでした。

午後二時、雨の中を行列して荒行堂正門「瑞門」へ、この門は百日後の二月十日まで開くことはありません、結界修業。修行僧を見送りし瑞門を背にして帰り出すと、体の底からの感動が湧きあがってくるのでした。

# 洋明さんのおはなし

（修行中にてお休み）

## Q&A

**Q　荒行堂の一日を教えてください。**

A　行堂の一日は真夜中三時の水行から始ります。寒中、震える身の腹の底から声を出し肝文を唱え水行。その後は法華経読誦。次は六時、九時、正午、午後三時、六時，十一時と一日七回の水行を行います。食事は一日二食お粥です。

**Q　どうして苦しい修行をするのですか。**

A　水行と法華経読誦で身も心も清浄に清浄にして、前世からもっている罪障を消滅し、仏天のご加護を請い奉るのです。

荒行堂の正面には法華経の行者を守護する鬼子母尊神（尊神）さまが安置されています。その尊神さまに身命の全てをお預けし、身の限界を超え尊神さまのご加護を頂いた時、霊力、経力を身につけることができるのです。

**Q　今後の予定を教えて下さい。**

A　激励お見舞い団参を二回計画しました。

十二月十四日（日）バス一台

一月十一日（日）バス一台

田方三島、京浜地区、遠方地区の皆さま、現地（千葉県市川市）で合流できますのでぜひご参加お願い致します。［詳細　別紙］

◎二月十日（火）成満、尊神さまに護られて無事修了を祈念しています。

◎帰山式　二月中旬を予定しています。

## 御志納金［七月～十月］

当山住職　先代御内室七七日忌砌

三島市　三村秀生殿　尊母葬儀砌

伊豆の国市　井関浩二殿　寿量の塔納骨砌

西　佐藤雄一殿　尊母十三回忌砌

富士市　坂本重則殿　寿量の塔納骨砌

初行僧を指導する洋明上人

入行会　法華経寺祖師堂（国宝）

正門が閉じられ、帰る見送りの人々